

三加和  
中学校  
学校たより

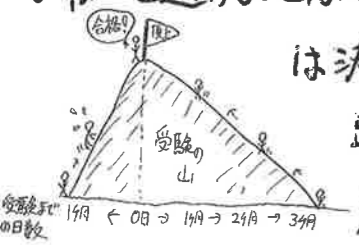
# MIGAKIAU

10月29日(金)

## 進路のことを考える...



先週、3年生は進路決定の判断材料とする実力テストを受けました。今回は高校説明会があり、近隣の高校の先生がきて各学校の特色などを2、3年生に対して説明されました。そう、中学校の一番大きなイベントは進路決定です。自分の将来のことを考え、どんな進路を歩んでいくのか決めていかなければなりません。当然中学校の段階ですべてを決定するわけにはありませんが、大きな方向づけは行うことになります。多くの人は受験を経験し他の学校の生徒と競争することになります。昔ほどではありませんが、シビアな戦いを避けることはできません。よく受験は登山に例えられます。合格という頂上の高さは決まっています。問題はそこにたどり着くルートがたくさんあるということです。距離はあるけどなだらかな坂道を少しずうのぼるルート。距離は短いけれど急激な斜面や崖をのぼらないといけないルート。距離は受験までの時間と考へてみてください。つまり、時間はかかるけど、少しづつ安全に頂上までのぼるのか、短時間で一気に崖をのぼって頂上までいくのか...当然危険な崖のぼりですから、足まふみ外れて落ちる可能性も高くなる。どうを選ぶかです。1、2年生の皆さんは、また先のこと、と思っているかもしれませんが、今、この勉強の内容が入試の中身なんです。つまり、今やっている勉強がすでに受験勉強なんです。こつこつ積み重ねて後々楽にするのか、今楽をして後で苦しむのか、選ぶのは自分自身。過去と他人は変えることはできませんが、未来と自分は変えることができます!!「どうせ無理」とおぼろめるのはいつまでもおぼろめ、今はとにかくやってみよう!! 自分の未来のために...



## それじゃあ未来のために何をすると...?

「私が一番うけたい  
3300の授業」  
比田井和孝著から抜粋

左の話を引けて、「よし、変えてみよう!!」と思て(木村人がいるらしいですが)、じゃあ、何をしたらいいですか?、て話になりますね。そんな人たちに昔の人の例を紹介はする者!!

江戸時代のおわりごろのことです。吉田松陰 よしだ ぼうれん という人が、山口県の萩市という所で松下村塾 しょうか むらじやく という学校を開き、そこでわずか1年と1ヶ月、79人の若者に13人余の事を教えました。その79人の若者の中には、高杉晋作 たかすぎ しんさく とか、久坂玄瑞 くさか げんずい、桂小五郎 かつら こごろう (後の木戸孝允 きと けいゆん)、伊藤博文 いとう ひろふみ や山県有朋 やまがは ありとも という人がいたんです!! (銀魂というマンガを知ってる人は聞いたことあるかも...)。そしてなんと、その時代にその若者たちの中から5~6人がヨーロッパに留学している人です!! 言葉も通じない人あからず、ヨーロッパ、どこにあるの? どうしたら行けるの?、ていような時代に、日本をよくするためにヨーロッパに学ぼう...、て言て。

さらに、その若者たちの中から、明治維新後の総理大臣が2人 (ちなみに、初代が伊藤博文、2代目が山県有朋です。) として大臣が10数名も出たんです!! それで、これの何がすごいのかという(これだけでもすごいのですが...) 79人の若者といいますが、別に特に優秀な人たちを集めたわけではないんですよ!!

山口県の海沿いの片田舎にすんでいたただの若者 だったんです。そこには農民の子ともいれは、武士の子がいたり、商人の子がいたり、113人の子がいたんです。その地域にたまたますんでいた子たちです。そう、みんなと同じような子たちの中から、わずか1年と1ヶ月 教えただけで、そんなすごい人たちが、何人も出てきています。すごいんです!! 一体、その79人の若者たちは、その松下村塾で何を学び、何を身につけたのでしょうか...? それは...

すみません、書くと3年かかるとので、次号につけて...

返信  
よろしく  
お取  
り  
します!!